

平成 2 9 年 度

# 学 校 評 価 総 括 表

奈 良 県 立 吉 野 高 等 学 校

教育目標		校訓の至誠・進取・剛健・親和を旨として、人権を尊重し民主的で平和な社会と新しい文化の創造に努める人間を育てる。					総合評価	
経営方針		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒一人一人の夢と希望の実現に向け、確かな学力を育むと共に、達成感と成就感を伴う多くの成功体験を保証することで、豊かな社会性と人間性をもつ生徒を育てる。</li> <li>○ 実学教育を推進し、生徒自らの未来を自分で切り拓くため、将来にわたり学習する意欲と態度を培うことで、地域社会の発展や産業の振興に貢献できる人材を育てる。</li> <li>○ 規律ある生活を通して、規範意識の育成や基本的な生活態度の涵養を図り、心身ともに健康で忍耐力のあるたくましい生徒を育てる。</li> </ul>					B	
平成28年度の成果と課題		本年度重点目標			具体的目標			
校種間連携や地域との連携活動が盛んに行われ、ボランティア活動が多く見られた。さらに、少人数ながらも、より丁寧な学習指導を実現させ基礎学力の充実に努めた。特に専門学科に係る有為な人材の育成に努めることができた。一方、部活動の低調さが目立ち、活力ある学校づくりに課題が残った。		1 校内外での挨拶、マナー等、規範意識の向上に努め、高校生として社会に通用する素養を身に付ける。			学校行事への主体的な参加、部活動、ボランティア等社会参画活動の推進を通して、生徒の規範意識を高め、自律する力を養う。			
		2 コミュニケーション力の充実に努め、地域と学校の活性化に努める人材を育成する。			課題研究発表会等で、自己の考えや調査結果を発信する力を養い、専門知識と技術を生かしながら、地域で活躍する有意な人材を育成する。			
		3 生徒に自分の進路を意識させることで、学ぶ意欲を引き出し、自ら進路を実現できる力を養う。			「進路学習プログラム」を基軸とした取組を確実に実施し、生徒が希望する進路の実現を図る。			
		4 地元地域の異校種間の連携を密にとり、地域に信頼される学校づくりを推進する。			三学科がもつ特徴的な教育活動を通して地域コミュニティとしての役割を果たすと共に、「産・官・学の連携」をより一層進める。			
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
式典・渉外等	学校・家庭・地域社会が相互に協力して、開かれた学校づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 式典・行事等では、もち方にこだわることなく、多くの意見を取り入れ改善を重ねる。</li> <li>● 分掌・学年・学科間の連携を密にし情報収集に努める。</li> </ul>	B	B	B	例年通りのやり方に拘ることなく、いろいろな意見を取り入れ少しは現状にあった工夫や改善を図ることができたが、改善の余地はあると思われる。	今まで以上に各分掌・学年・学科との連携を密にする必要があり、スムーズな式典・行事進行に努める。	学年や学科、外部の意見を取り入れ、もち方や開催時期を臨機応変に対応した。さらに固定的になるのではなく、改善を意識しながら実施する。
	渉外活動の更なる充実を図り、魅力ある学校づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ オープンスクールでの「ものづくり教室」において、地域住民との交流を深める。</li> <li>● 地域住民の方々のニーズを探り、参加者数の増加を目指す。</li> </ul>	A			各科の職員だけでなく、木工芸部の生徒が「ものづくり教室」をサポートしてくれ、参加していただいた地域住民の方々に喜んでもらった。	参加人数が少ないので、ニーズにあった内容ややり方を工夫し、各科への参加者を増やす。	地域住民のニーズに応える内容を検討しながら実施した。今後も柔軟に検討しながら改善を重ねる。
	育友会活動の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中学校訪問・オープンスクールの内容改善・各科の大会参加の成果をHPに載せるなどの広報活動を継続して行う。</li> <li>● 活動の成果や問題点など関係者から意見を聞き、充実度を上げる。</li> </ul>	B			事前に中学校訪問やHPでの広報活動を行ったが、不十分であり目立った効果を上げることができなかった。	広報活動の継続と、各種大会参加の結果をHPなどで発信するなど、本校の特色をPRする。	学校HPのシステムを変更中であるが、完成に至らなかった。来年度、早期に完成させ、より迅速で見やすい情報提供に努める。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 育友会活動への積極的な参加を図ると共に、役員間の連携や共通認識をより一層深め、活動を活性化させる。</li> <li>● 役員の方々の各行事への協力体制の強化を図る。</li> </ul>	A			予算の関係上、各種行事への参加に制限があったが、できる範囲内で積極的に参加していただき、活動することができた。	育友会長・文体会長を中心に非常に積極的かつ協力的な雰囲気である。ただ、役員の方々の顔ぶれが同じであり、他の役員の方々の参加を増やし、更なる充実を図りたい。	生徒数減少の影響を受け、活発な育友会活動が実現しにくい条件の中で、種々のアイデアを出し合いながら例年に見劣らない活動を実現した。育友会の方々に生徒の活動を広く知らせて欲しいです。

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
学習指導	学習指導要領に沿って学習の更なる充実を図る。	○基礎学力を養うことで社会人として活躍できるよう教育活動を充実させる。 ●学校設定科目、選択科目等を早い段階に検証、見直すことで、進路につながる学習活動の更なる充実を図る。	A	A	B	到達度別学級編制などの取り組みを行い、より一層生徒の基礎学力を養うことに重点を置いた教育活動を行った。また選択科目の内容について精査し、他教科とのバランスを配慮した。	生徒数が年々減少している状況を踏まえ、到達度別学級編制のあり方について検討する必要がある。また選択科目の選択方法・時期など、さらに検討すべき箇所がある。	基礎学力を基盤として専門の力が付く。基礎学力の充実のため、さらに一層丁寧な指導をお願いしたい。
	教員の学習指導力の向上を図るため、各教科の指導方法の改善と工夫を重ねる。	○指導力向上のため、教員間の情報交換や公開授業、研究協議を積極的に行う。 ●PCなどの情報機器を用いたICTを活用した授業を行い、より分かりやすい授業を実現する。	B	B		公開授業週間を設定し、他教科の授業も含めて互いに授業見学を行うことでよりよい授業展開につなげることが出来た。PC等の機器の活用は盛んになってきた。	PC画面を映すモニターの使用時間が重複する場面が多かったため、モニターの台数を増やしたりPC室を利用する等対応が必要である。	「授業公開週間」を始め、授業公開を行う機会を年間で3回設定した。保護者の数は少ないながらも外部公開も行った。
		○生徒が意欲的に学習できるような教材や授業方法に関する研修会を実施する。 ●夏期休業中を中心に教員の研修会を実施し、積極的に授業に活用する。	B			夏期に研修を行い、本校において重要になってくると思われる観点別評価の実施に向けて相互理解を図った。	他校に比べ観点別評価の導入等が遅れている状態であるので、具体的な方策を教務部として提案しながら進めていく。	夏期休業中に、教務関係の研修会を毎年実施している。今年度は、観点別評価について、全教員対象で研修会をもった。
	専門学科をもつ高校として、その特色を活かした授業展開を目指す。	○1年次における学校設定科目「奈良TIME」と「産業社会と人間」の内容を検証し、積極的に改善を図る。 ●より地域性のある教材を作成し、内容の充実を図る。	A	B		各科の基礎的・基本的な内容を中心に進めることで、二年次からの学科選択を行う判断材料として有効な位置づけが出来た。	使用教材に関してもっと相応しい教材がないかより精査する必要があると感じた。また授業のモチ方について、これからの課題として考えていく。	今年度初めて第1学年で設定した科目「産業社会と人間」では、教員の戸惑いもあったが、第1学年の生徒の学科選択のひとつの資料としては有用だった。
		○2・3年次における各専門学科での授業において、課題研究を中心に専門性の高い内容に取り組む。 ●生徒の主体的、自発的な取り組みが行われるよう授業内容を精査する。	B			各科での実習等を通じ、より生徒達の意欲・関心を高めながら授業を行うことを心がけた。	各競技会やコンテストなどに対する意識をより高くすることを目標とし、第一学年から各科の授業内容をより深めていく。	生徒の自発的・主体的な取組を引き出すために、生徒自身が設定するテーマに沿った題材を豊富にもっていただきたい。
	資格取得をサポートできる教育課程の工夫と改善を図る。	○関係教員と協力し、生徒に対し資格取得を積極的に奨励し、対策講座の活性化を図る。 ●対策講座を充実させ、受講・合格生徒数の昨年度比50%増加を目指す。	B	B		漢字検定や英語検定など、各教科と連携しながら取得率向上を目指した。その中で学校設定科目「ステップ」や「フードデザイン」等、資格取得をふまえた授業設定を行った。	引き続き各教科の授業の中でも資格の重要性を示し、資格取得を積極的に勧めると同時に対策講座の充実を図っていく必要がある。	資格は大切で、一生有効なので、是非、学校教育の中でも取り扱って欲しい。さらに充実した取組が期待されます。
生徒の課題解決能力・発表能力(表現力)の向上を目指す。	○「課題研究」発表会を通して生徒の課題解決能力・発表能力(表現力)の向上を目指す。 ●積極的に生徒間で相互評価することにより、研究内容の充実や表現能力の向上に結び付け、生徒の学習意欲を向上させる。	B	B		課題研究の発表を通じて、生徒達の自主的な発表や表現を促すことで生徒達の自主性の向上に努めた。	与えられた課題をこなすだけでなく、自ら課題を見つけ、解決していく能力の醸成を強く意識した取組を展開する。	「課題研究発表会」を全校生徒対象に継続実施することで、生徒の専門学科における目標ができると考えられるので続けていきたい。	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
生徒指導	規範意識の向上を図り、規律ある行動ができる生徒を育てる。	○服装指導の徹底を図る。 ●服装チェックカード等の取組を行い、服装指導の充実を図る。	A	A	B	<p>服装指導は昨年よりも取組を強化し、改善が見られた。今年1月にチェックカードを導入し、さらなる向上を期待したい。</p> <p>規範意識を高める集会の内容を、現代の課題や生徒の年齢・実態に応じた内容の見直しを図った。 特に、交通関係や喫煙防止指導に力を入れ、行事への参加率も90%以上となっている。 これにより、乗車マナーや喫煙行為による苦情は昨年よりも大幅に減少し、2学期からは0件である。</p>	<p>現状に満足することなく、次年度にもつなげて行きたい。</p> <p>現状に満足することなく、次年度にもつなげていきたい。</p> <p>来年度は、高校生交通安全大会に生徒を参加させ、マナー向上につなげる。</p>	<p>年々、吉野高校生の身だしなみは良くなっていると実感しています。指導の効果が出ていると感じています。</p> <p>様々な規範意識があります。それぞれに対応するのは難しいですが、毎年、視点を変えた取組が実施されていることがよくわかりました。</p> <p>校内の喫煙が2年以上皆無を続けているのは良いことと思います。乗車マナーも向上しているとよく聞きます。継続的な指導をお願いします。</p>
		○各学校行事の見直しを図る。 ●生徒や社会の実態に合わせた、規範意識を高める集会の内容を厳選し、真剣に取り組むことができる態度を育てる。	A					
		○乗車マナー・喫煙指導の改善。 ●喫煙指導の方針を見直し、生徒の命や健康に即した指導に取り組み、指導体制の充実を図る。	A					
	スクールカウンセラーと協力し、教育相談体制を充実させる。	○禁煙外来やスクールカウンセリング、県の教育相談との連携を図り、保護者等と課題の早期発見・解決を目指す。 ●研修会を年に3回行い、情報交換や共通理解をできるようにすると共に、生徒の悩みや保護者の相談・要望に対応するように、家庭訪問や懇談を実施する。	B	B		<p>本年度の喫煙による特別指導は、4件であった。このうち2件の生徒に対して保護者、禁煙外来の協力の元、指導を行った。指導後は喫煙を行っておらず、一定の改善が見られている。また、県の教育相談とも連携を図り、支援を要する生徒に対しての相談も充実でき、一定の成果が得られている。</p>	<p>喫煙防止指導は非常に高い効果を示しており、指導を継続したい。</p>	<p>保護者と連携した取組をされていることがわかりました。大切なことです。この状況を継続して下さい。</p>
	更なる生徒会活動の充実を図る。	○地域の取組に参加する。 ●生徒会・家庭クラブ・農業クラブ等と連携し、地域活動へ参加する。また、他校種との交流も年2回以上実施する。	C	B		<p>生徒自ら運営していく方法を、少しずつ理解してきたが、生徒がすべて主体的となるまでには、まだまだ改善と支援が必要である。また、本年度は校外への活動が、昨年度同様の事しかできなかったのが反省点である。</p>	<p>生徒・保護者へのスクールカウンセリングの理解と相談の普及を広げ、生徒の支援と理解を図る。</p>	<p>生徒会活動の充実が急務と思いました。来年度は、改善する計画であると聞き、それを見守りたいと思います。</p>
		○球技大会・体育大会の行事の更なる活性化を図る。 ●生徒主体の活動を率先して行い、次期生徒会については、リーダー研修会等をもつ。	B			<p>リーダー研修会は、4月の始めを予定しており、本年度に研修会を持つことができなかった。</p>	<p>4月の研修会を機に、生徒会活動への、生徒の主体的参加と活動を目標に、改善を図る。</p>	<p>リーダーの養成は、今までになかった取組を始めようと思われたいは大変良いことだと思います。</p>
進路指導・キャリア教育	生徒と保護者と学校、三位一体の進路指導を展開する。	○「進路ニュース」を発行し、各学年に応じた情報提供を行い、家庭で進路を考える機会を設ける。 ●1、2学年対象と3学年対象とに分け、年5回発行する。	A	A	A	<p>「進路ニュース」は計画通り、5回発行できた。4、5号は全学年共通の内容であった。</p>	<p>学年によって、進路に対する関心、課題が異なるので、学年にふさわしい内容で発行する。</p>	<p>進路に関する情報は保護者も関心が高いはずで、ニュースの5回発行をこれからも続けていただきたい。</p>
	社会人として必要な「生きる力」を身に付けさせる。	○各部と連携しながら進路に関するLHR等を早期に計画し、社会人として必要な資質について考えさせる。 ●進路に関するLHR等を各学年5回以上実施する。	A	A		<p>1、2年に関しては、「職業レディネス・テスト」を1学期に実施した。外部講師等のガイダンスなどで、進路決定の動機付け、そのための材料を示すことができた。</p>	<p>生徒への効果をより高めるために、企画をお願いしている業者との連携をより密にし、実態に応じた進路行事の精選をおこなう。</p>	<p>進路について、早い段階で定まっていたと聞きます。できるだけ早期に定まるよう努力を尽くしていただきたい。</p>

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
進路指導・ キャリア教育	生徒個々の適性・ 関心度等を把握し、 一人一人が将来を 展望できる進路の 実現を図る。	○「職業レディネス・ テスト」を実施し、 自分の持ち味を知り、 それを活かせる仕事に ついて確かな知識や情 報を得る。 ●1、2学年に実施す る。	B	A	実施はできたが、充 分に活用できるところ までは至らなかった。  時間的に充分とは言 えないが進路開拓に 向けての意識の向上 はできた。今後は、 参加者と出席率のよ り一層の増加を図り たい。  モニターを活用する などして、計画通り 実施できた。夏期休 業中の面接練習は、 教育研究所のキャリ アサポートセンター のサポーターに協力 を仰ぎ、向上に向け て段階的に練習を重 ねられた。  進学希望者が少な いため、個々の生徒 への対応で充分であ った。生徒の希望を 受けて、新たに指定 校推薦の枠の獲得が できた。  「公務員対策講座」 を2回実施したが、 参加者が少なく、活 況を呈するまでには 至らなかった。	結果を検討できる ような時間を設ける ことと、1学期末の 三者面談で、保護者 に提示できるように したい。  参加を促すために 講座の有効性を訴え、 実施内容の精選をお こなう。  応募前見学と時間 が重なることもあり、 実施日時に融通をも たせることが必要で ある。  早くから生徒の希 望を聞き、進学に限 らず、就職においても 進路先の開拓により 一層努める。  公務員希望者には 早くからその自覚を 促し、最後まで努力 を怠らない、あきら めない姿勢を涵養す るような光明の見える 指導、取り組みをお こなう。	生徒が自分のこと を知る手立ては必 要だと思います。な かなか自分のこと を理解することは 難しいです。いろ んな工夫をお願いします。  補充学習は必要 です。もっと工夫 すれば参加者も増 えるはずですが、 言葉で訴えるだけ でなく、実力テスト を実施するのをも つとつアイデアか もしれません。考 えて下さい。  いろいろな関係 者の協力を得るこ とは、必ず行って 下さい。少人数だ からこそできる進 路指導があると思 います。  進学が少ない現 状は理解できます が、豊富な進学先 の確保も大切と考 えます。今後もそ の点の努力をお願 いします。  公務員の合格は 厳しいことは理 解しますが、早く からその手立てを 行えば不可能では ないと思います。 今後に期待した いです。
		○進学や就職に 向けた補充学習を 放課後や夏期休業 中に計画的に実施 する。 ●1学年は国語、 数学を中心に、2 学年は学年担当の 先生の協力を仰ぎ、 英語、社会を含め た教科の「進路に つながる基礎講座」 を、3学年は筆記 試験対策講座を毎 週実施する。	A				
		○3学年の就職 試験対策をより一 層充実させる。 ●「就職セミナー」 を1学期に4回実 施し、就職に向け て意識の向上を図 る。また、夏期休 業中の面接練習を それぞれ3回以上 、筆記、作文対策 の講座を5日程度 実施する。	A				
		○多様化する入 試制度に対応する ため、第3学年の 生徒および教員に 周知徹底を図る。 ●1学期に「進学 セミナー」を実施 する。	B				
		○公務員採用 試験に向け、早期 から対策をし、生 徒の自覚を促す。 ●「公務員対策 講座」を年数回実 施し、充実を図る。	B				
人権教育	教員の資質と 能力の向上を目指 し、計画的な取組 を推進する。	○人権教育推進 計画の充実を図る。 適期に人権教育推 進委員会を実施し、 教員の人権教育に 対する意識の向上 を図る。 ●人権教育推進 委員会で、本校人 権教育の具体的方 針等を決定し、教 員の認識を高める。	C	B	職員会議等で共 通理解を図りなが ら取り組みを進め てきたが、人権教 育推進委員会を開 催することができ なかつた。  夏期休業中に特 別支援教育に関 する校内職員研修 を実施し、より現 場のニーズに即し た研修ができた。 各種団体が実施 する研修会等の参 加率もほぼ100% を達成した。	年度の早い時期 に人権教育推進 委員会の開催の 計画をたて周知 徹底する。本校 生徒の実態を踏 まえ生徒達にと ってどのような 人権教育が必要 か検討していく。  人権教育に関 する研修会や講 演会等の案内を 全職員に呼びか け、できるだけ 多くの参加者を 促したい。また 研修した内容を 全職員に伝え、 共有できるように 努め、人権意識 の向上に努める。	多くの教育問題 が生まれる中、 開催が難しい ことは理解でき ませんが、是非、 来年度は人権 教育推進委員 会を開催して いただきたいと思います。  休業中の研修 会は継続して いただきた いです。また、 校務分掌とし て一部門を持 っているの で、研修会等 に参加され た教員がその 内容を他の 教員に周知 する。
		○教員の研鑽 を図るため、校 内研修会を実施 し、人権教育研 修会への参加体 制を整える。 ●教員の人権 教育関連の研 修会への積極 的な参加を目指 す。	A				

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策		
人権教育	豊かな人間性の確立を目指した人権教育の推進体制を確立する。	○生徒の実態を踏まえた人権教育推進計画を策定し、人権教育ホームルーム等で展開する。 ●家庭訪問や中学校訪問を通して生徒の実態を把握し生徒理解に努め、人権教育活動や授業にその成果を生かす。	B	B	年間計画通りに人権教育HRを実施することができた。中学校訪問を実施することにより、生徒の実態把握をより綿密に行い、学校生活で起こりうる様々な事象に迅速かつ適確に対処することができた。	今年ではできなかった部落問題やLGBTに関するHRも、少しずつ実施していけるよう持ち方を検討する。物事を様々な側面からとらえたり、相手の立場に立って考えたりできる豊かな心の育成を目指して指導する。	中学校訪問のは、これからも継続していただきたい。少人数だから、丁寧な指導をよろしく願います。		
		○「人権だより」の発行、「人権学習会」を開催する等、教職員と保護者・生徒が共に考える機会を設ける。 ●「人権だより」を年3回以上発行する。	A	学期ごとの「人権だより」の発行は行えたが、保護者向けの人権学習会は周知徹底できなかった。				夏期休業中等に各種団体によって行われる、職員・保護者が共に学べる研修会への参加を積極的に行う。また人権映画学習会の内容についても見直し、人権意識の向上に努める。	保護者に対する「人権意識」の啓発活動もお願いしたい。最近のトラブルは、通信機器を使ったもの多いので、家庭での人権意識の重要性が高まっていると思います。
		○特別支援を要する生徒に対し教員が保護者・関係機関と連携し適切な指導・支援を行う。 ●特別支援体制を共通理解する。支援の必要な生徒については、教員間でその情報を共有し適確な支援が行えるよう連絡・連携を密に行う。	B	中学校訪問で把握した内容や県の教育機関での相談内容や助言をもとに、3名の生徒について個別の指導計画を作成した。その内容を共有することにより、その後のよりよい支援につながった。				普段の学校生活での会話を見直し、人を傷つける自分本意な言動がないか自己点検することを常に心がけるよう生徒達に伝えていきたい。また反論できず我慢している生徒がいるかもしれないことを念頭に置き、いじめのない学校作りに努める。	個別の指導計画作成は、時間もかかると思いますが、それだけ丁寧に当該生徒と向き合っていると考えられます。継続して取り組んで下さい。
	生徒の実態把握に努め、保護者の理解・協力のもと、人権教育の更なる充実を図る。	○いじめやネットによる人権侵害等のトラブルについて早期発見と未然防止に努める。 ●生徒指導部・学年と連携し、「いじめをしない・許さない」行動宣言を行い、いじめゼロを実現する。	C	B	生徒指導部が主導して「いじめ」をなくす取り組みを行ったが人権教育部としての関わりが不十分であった。	これまでの取り組みを継続させると共に、生徒や保護者の希望をできるだけくみ上げる努力を今後も継続して行う。	「いじめ」に対しては、中心となる分掌は決まっていたとしても全校体制で取り組んでいただきたい。それが次の「いじめ」を生まないことにつながると考えます。		
	○各種奨学金を必要に応じて紹介し、その利用促進を図る。 ●わかりやすい案内を作成し、三者懇談の機会等を利用し、関係資料の配付や説明会を実施する等、広報の充実を図る。	A		各種奨学金制度の利用希望者を対象に、説明会や個別相談を実施し利用後の不安を軽減すると共にその促進を図った。	奨学給付金については、特にその対象者への案内を確実に伝えるよう徹底する。	奨学金も様々で、整理が大変なのはわかりますが、それで生徒の生活が改善されたり進学が実現されたりします。更なる充実をお願いします。			
文化図書	文化祭の一層の充実と活性化を図る。	○生徒主体の文化祭となるよう、計画からクラス毎に目標を明確にし、工夫ある取組を展開する。 ●生徒対象のアンケートを行い、満足度90%以上を目指す。	B	A	B	文化祭のテーマ等を早い時期に決め、テーマに沿ってクラスで取り組みをするとともに、文化委員が中心となって生徒による文化祭にしたい。	来年度からはもっと生徒主体の文化祭となると聞きました。少しでも多くの生徒が主役として参加した実感をもつ文化祭となることを望みます。		
		○生徒の学習や活動内容を発表する機会を設け、その成果を相互に確認する。 ●研究発表会が1年生の学科選択の資料となるように、前年度以上に充実した研究発表会にする。	A	各科の発表を1年生が見ることで各科の特徴的な取り組みが解ったと思う。次年度の科選択に役立った。				各科の発表の内容をより充実するために、科内で科独自の取り組みやより充実した発表を図る。	学科の取組だけでなく、実習を主とする教科や生徒会の文化部からの展示や発表を充実させて下さい。

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
文化図書		○近隣地域への公開を継承し、日頃の学習の成果を披露することで、開かれた学校づくりの充実と本校理解に努める。 ●地域の方々に参加できる新しい取り組みを取り入れ、地域色のある文化祭にする。	B		近隣住民に500枚のチラシと招待券を配布し、沢山の方に来校していただき、「課題研究発表」等に高評価と本校を理解していただくと機会となった。	地域の方々と共に取り組む「ものづくり」や調査研究等に工夫ある取り組みを凝らし、より充実した新しい文化祭を創造する。	地域に開放した文化祭を継続してきたことは評価できる。これからも、工夫しながら継続していただきたい。	
	図書室の利用促進を図る。	○図書委員による活動を活性化し、図書室の環境整備を行う。 ●図書室の整備、整頓を行い、週2日以上の開館し、昨年度以上の利用率の向上を図る。	C	B	残念であるが、図書室の環境整備をすることができなかった。来年度は、図書委員を中心に図書室の整理、整頓を行いたい。	図書室の環境を整え、生徒の声を反映した具体的な方策を立て、開室に向けた実践を図る。	図書館利用について、改善策があるので、安心しました。是非、より生徒が書物に親しめる環境づくりを実現し、開館日の大幅増加を願います。	
		○図書室の広報活動を行い、読書に親しむ環境を整える。 ●内容を精選した、広報誌「図書だより」を年2回以上発行する。	B		図書室からの広報活動の一環として「図書だより」を発行し読書率の向上を図った。	生徒の希望や意見を聞くと共に蔵書の紹介等を「図書だより」で紹介し、改善を図る。	「図書だより」は継続していただきたい。更に、保護者や地域のボランティアとの連携も考えていただきたい。	
	読書の楽しさや素晴らしさを認識させ、本を読む習慣を身に付けさせる。	○生徒が読書に親しみ、楽しさを実感できる取組を行い、読書意欲を向上させる。 ●全校一斉読書会を年2回実施する。	B	A	短編小説を活用した一斉読書会を開催し、クラスの様子を聞くと途中で読むのを止める生徒もいたがほとんどの生徒は最後まで読み切れた。	生徒の意見を聞き、生徒の興味関心ある小説を題材にした一斉読書会の実施を図る。	一斉読書も良いが、普段からの本離れについて、教員として取り組むべきことがあると思います。検討をお願いします。	
○読書感想文を夏期休業中の課題とし、それを発表する機会を設け、文章を書く力、表現力を養う。 ●優秀な作品を文化祭で発表する機会を設け、表彰する。		A		ほぼ100%の読書感想文の提出があり、優秀作品を学年毎に文化祭で発表し、賞賛することができた。今後も、読む、そして感想を書くことを通して、読書への興味・関心を高めたい。	読書感想文発表会で発表した感想文や優秀な感想文を「読書感想文集」として、生徒への配付しより一層の充実を図りたい。	読書感想文の提出が全員出ていることは大変良いことだと思います。これからも、様々な工夫をして継続していただきたい。		
保健環境	保健体育の授業を通して専門的技術、体力、コミュニケーション能力の向上を目指す。	○授業の準備体操・集団行動や授業終了後の片付け等を生徒主体で行うようさらなる徹底を図る。 ●達成率100%を目指す。	A	A	B	チャイムで整列している状態を作り、授業の準備・片付け等も昨年度より行っている内容の質が高くなり、生徒が自ら行う姿勢が見られた。	チャイムでの授業開始が定着しているのを、さらに充実した授業になるよう、声かけを継続していく。	チャイムでの授業開始は当然です。授業の準備・後片付けが生徒主体できちんとできていることがよくわかりました。継続してお願いします。
		○チーム競技、持久走を強化し体力の向上を目的とした授業を展開する。 ●生徒に応じた設定タイムや専門競技を行い、仲間との連携、個々の体力の向上を図る。	A		どの種目でも生徒にスポーツをする楽しさや達成感を感じさせながら、運動量ある授業ができ体力向上を図ることができた。	どの種目でも生徒に応じた目標を設定し、さらなる向上を目指す。	スポーツする楽しさを多くの生徒が実感していることがよくわかりました。大変良いことだと思います。	



評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
保健環境		○生徒個々の体力に応じた目標を設定し、体力テストの結果の向上を図る。  ●本校の体力テストの平均値を前年度比で県及び全国の平均値に並ぶ。	B			体育の授業を通して確実に本校での体力は向上しているが、県及び国の平均値にはまだ近づいていない。意欲を引き出し、前向きに取り組ませることが今後の課題である。	体育の授業を通じて、一人でもできるトレーニング内容を指導していき、日々継続することを身に付けさせることで体力向上を図る。	体力の向上が数値としてはっきり出ていると聞いてうれしく思いました。今後とも継続指導をお願いします
	生徒に健康管理を行う力を培うと共に日常生活で役立てる知識を身につけさせる。	○教員・部活動生徒・一般生徒を対象に、心肺蘇生講習会を開催し、命の大切さ・重さを理解させ、救命に必要な知識・手法を身に付けさせる。 ●AED講習会を、教員、部活動生徒を対象に実施する。 ●保健体育の授業を通じ、第2学年を対象としたAED講習を2学期に1回行う。	B	C		教員と部活動生徒、また一般生徒対象に、AED講習を開催し、命の大切さ重さを理解する機会を設け、救命に必要な知識・手法を身に付けた。しかし、保健体育の授業で全生徒を対象にAED講習(実技)を行うことができなかった。	全生徒が、AEDの知識と技能を習得できる機会を設けることができるよう改善に努める。	現在、AEDをいろんなところで見ることができるようになりました。また、この機器のおかげで一命が取り留められた事も多いです。是非、全生徒対象をお願いします。少人数だからこそできる取組だと思えます。
		○歯に関する知識を授業を通して学ばせ生徒とその保護者が健康に関する意識を高めるよう、保健だよりやポスターで啓発を行う。 ●検査や治療が必要な生徒の受診率80%以上を目指す。	C			三者面談時に保護者へ啓発を行う中で虫歯・視力の治療を担当・養護教諭を中心として行ってきたが受診率は依然低いままであった。	今後も引き続き、粘り強く保健指導を行い、日頃の食生活から改善を促していく。	受診率の低さの要因の検証が必要だと感じました。その上で、学校としてどう取り組むのかを考えて実行していただきたいです。
		○食育についての講演会やHRを利用して食に関する意識を高め食育を推進する。 ●生徒の朝食摂取率100%を目指す。	C			生徒・保護者へ啓発や保健室来室者等を中心に、自らの生活習慣の改善指導を行っているが、生徒の朝食摂取率100%には至らなかった。	生活習慣で朝食を食べないことが定着しており、個別指導を中心に行ってきたが、意識の変化などは見られなかった。今後、講演会等を実施し、食の大切さを知る機会をつくるよう整えていく。	食育の啓発活動は、家庭環境が大きく影響する等、課題が多いとは思いますが、講演会は今後必ず行っていただきたいと思えました。
森林科学科	農業クラブ活動の充実を図る。	○奈良県事務局校として、農業クラブ活動の充実を図る。 ●各校と連携を密にして、年間を通じた運営や第68回奈良県学校農業クラブ連盟大会の成功を目指す。	A	A	A	事務局校として、他校と連携しながら第68回奈良県学校農業クラブ連盟大会を成功に導いた。また、プロジェクト発表では最優秀賞を受賞し近畿大会に出場した。	地域の課題解決に向けた、地域貢献分野で研究テーマを選び、継続的に取り組むことで、実績や実践を重ね評価を高めるとともに、事務局として各校と連携して、適正な大会運営を行う。	少人数ながら、農業クラブが活躍されていることを誇りに感じています。少人数であることを弱みではなく、強みに変えるようにお願いします。
		○交通安全啓発グッズや葉ボタンの配布、森林ボランティア活動(植林、間伐)等に積極的に参加し、社会性を培う。 ●各学期2回以上の活動を実施し、地域に貢献する。	A			農業クラブ役員を中心に、諸行事の計画を立て、それぞれの目的を達成しようとする意識をもつことで、意欲的な取り組みとなり、成果につなげた。	社会参加の取組を一層拡充させ、生徒一人一人のボランティア精神を更に高め、主体的に社会に貢献できる生徒を育てる。	ボランティア活動は、多くの学校で定着が見られます。ひとつの部活としていたるところもあると聞きました。吉野高校に合ったあり方で活動していただきたいと思えます。



評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
			B					
森林科学科		○ものづくり研究班が製作したオリジナル木工作品を、学習成果として校外に発信し、生徒の意欲向上に結び付ける。 ●オリジナルデザインにこだわった木材加工製品を製作し、吉高ブランド(“Yosshi”、“SOMAbit”)の定着を図る。	B			課題研究やものづくり班の生徒作品を産業教育フェアにおいて展示し、好評を得た。今後も継続し、生徒のアイデアを活かした木工品を開発する予定である。レーザー加工機でロゴを入れた作品の販売には至らなかった。	更新されたレーザー加工機を活用し、製作した木工作品には、「YOSSHI」・「SOMAbit」のブランド名のロゴを入れ、各イベントで展示等を行い、ブランドの定着を図る。	木製のスプーンやしゃもじの作製はいいアイデアだと感じました。木の温もりを伝える活動も継続して下さい。
	学科の特色を生かした地域貢献を進める。	○吉野山の「桜の再生」を積極的に支援する。 ●母樹の種子から優良苗を栽培し、吉野山再生に向け、保全活動を一層推進する。	B	A		生徒数が少なく課題研究班を設けることができなかった。現在、母樹から育った約20本の苗を育てている。	吉野山シロヤマザクラの苗を育成することは意義のある活動である。今後は、挿し木による苗生産を課題研究班で行いたい。	吉野山のサクラの取組は良い取組と感じています。また、鳥獣害防止のためにボランティアも考えていただきたいです。
		○地域住民・中学生を対象に、森林科学科の特色を生かした活動の充実を図る。 ●地元中学生を対象に「吉中友灯工房」、地域住民を対象に「ものづくり教室」を開催する。	A			吉野中学生を対象に「吉中友灯工房」の技術指導を行った。オープンスクールでは、地域住民の方15名を対象に「草花の寄せ植え」を行った。	オープンスクールの講座内容も地域の方々の要望や本校の教育内容や施設設備をふまえ、内容の一層の充実を図る。	行灯づくりのサポートは、地元で根ざしています。ものづくり教室の充実を願います。
		○吉野の良さを本校から発信し、地域の発展に貢献する。 ●「よしの調査隊」の更なる活発な活動を図り、地域に関わる魅力的な情報を全国に発信する。	A			2015年のグッドデザイン賞を受賞した「文様割箸」が注目されたこともあり、よしの調査隊が吉野の良さをPRする機会が増えた。また、吉野川での筏流しイベントも成功させた。	地域創生に向け、吉野の良さとして、伝統ある文化・歴史や地域産業を魅力ある地域産業としてこれからも世界に発信していく。	「よしの調査隊」の活動は地元のケーブルテレビで見かけることがあります。地元の情報発信できる材料はたくさんあるので、さらに活発な活動をお願いします。
		○吉野林業活性化を目指し、作業道整備に向けた学習活動を充実させる。 ●演習林や学校近隣の森林整備を行う。	B			本年度も清光林業(株)の岡橋清隆氏を社会人講師として招き、作業道作りの講義を受講させた。愛染演習林への作業道の建設計画を含めた調査研究活動を続ける。	愛染演習林の作業道敷設に向け、課題研究テーマとして作業道プロジェクト班を立ち上げ、意欲的に取組を進めていく。	「森林環境税」が導入されるとおもいます。森林アカデミーも含めて発展するよう先生方の努力をお願いします。
建築工学科	生徒の希望する進路実現に向けた取組を進める。	○早期から資格取得・検定試験に対する意識を芽生えさせ、受験者を増加させ、取得に向けた対策講座等の充実を図る。 ●各種資格取得・検定合格率60%以上を目指し、取得生徒数を増加させる。	B	B	B	レタリング検定4級4名中4名、3級1名中1名、トレース検定3級4名中3名、2級1名中1名の合格だった。しかし計算技術検定3級4名・4級1名、基礎製図検定で2名受検したが不合格だった。	生徒の取得意欲は向上しており、放課後や長期休業期間を有効に活用して対策講座を実施している。今後も生徒が積極的に参加できるように体制を整えて、上級での合格率を上げるように取組を継続していく。	資格取得について、多くの部門で意識していることがよくわかりました。大変良いことだと思います。更なる充実を期待します。
		○課題研究等あらゆる場面を通してプレゼンテーション能力の向上を図る。 ●課題研究等の充実を図り、学科内発表会をさらに充実させる。	B			学校行事での発表や学科内の発表会を通じて、プレゼンテーション能力等の向上させる取組ができた。	生徒の実態を見極め、それにあった方法で社会に出たときに必要な技術・能力を身に付けさせる取組を更に充実させる。	プレゼンテーション力が必要な時代となっています。生徒にすぐに身に付く力ではありませんが、継続指導をお願いします。

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
建築工学科	学科の特色を生かした地域貢献を進める。	○さまざまな機会を通して地域社会や保護者を含めた小・中学生等に建築工学科ならではの支援活動を行う。 ●地元中学生を対象に「吉中友灯工房」を、地域住民対象に「ものづくり教室」を開催する。	A	A	夏期休業中に「吉中友灯工房」の技術指導を行い、素晴らしい作品製作の場となった。 オープンスクールでは地域の方々を対象に「プランター置き製作」を実施した。木工芸部が中心となり開講でき、参加者からは好評だった。  吉野元気まつりでは、吉野町主催の「木工教室」のサポート役として木工芸部を活躍させることができた。	今後も「吉中友灯工房」を継続指導したり、地域住民を対象に意欲的に支援活動等の取組を進める。 オープンスクールの実施内容は好評なので、幅広く地域の方が参加できる工夫を行う。  生徒が建築の専門知識・技術を生かせる場所として機会があれば参加させたい。また木工芸部や建築文化部の活動が充実してきているので、さらに活動を生かせる活躍の場を広げたい。	地域住民対象の「ものづくり教室」は、参加者が小数でも継続していただきたい。  「元気まつり」で木工教室を毎年サポートしていることを継続していただきたい。さらに、文化祭での作品の販売を充実させて欲しい。	
		○「地域と共にある学校づくり」を推進する。 ●地域イベントへの参加や営繕に関する建築の専門知識・技術を生かし地域に還元する。	B					
土木工学科	専門分野の知識・技術の深化を図るため、資格取得や各種大会へ積極的に参加する。	○生徒個々の進路実現を目指し、積極的な資格取得を奨励し、対策講座の充実を図る。 ●各種資格取得者を前年度より更なる増加を目指す。	A	A	A	生徒一人一人に応じた進路指導を展開する中で、各種の資格取得に向けた意欲喚起を図り、目標値を達成することができた。	生徒個々に喚起して、資格取得への意欲の高揚を図り、進路実現に向け、早い段階から対策を講じ資格取得者数の増大を図る。	どの学科でも資格取得を意識していることは良いことです。この姿勢は継続し、是非、合格率の向上を更に目指していただきたい。
		○最新技術の体験を取り入れた授業を行う。 ●社会人講師を活用し、「測量に関する最新技術の習得」、「コンクリート打設方法」に関する授業を年間8時間以上実施し、内容の充実を図る。	A		社会人講師(6時間)や建設業界が主催する施工実習講座に参加する。構造物製作の基礎から計画・実施を通して、生徒の専門的な知識・技術の向上を図った。	外部講師による講義・実技を今後も継続して行い、より専門性の高い知識・技術の習得につなげ、「学習の質」の一層の向上を図る。	専門学科では、外部講師の活用を活発にお願いします。エキスパートの技術に触れることで大きく動機付けになると考えます。	
		○新技術・工法に触れ意識の高揚を図る。 ●建設現場見学や技術展の機会を多くもつ。	A		積極的に現場見学(トンネルや、吉野川河川敷の堤防の建設現場)を取り入れ、専門分野の意識向上を図った	現場見学を通して興味・関心を高め、将来技術者としての意識・自覚の高揚を図る。見学場所・日時等を学年や分掌と連携して継続していきたい。	大変良い試みだと思えます。これからも現場見学等の機会を増やして下さい。	
		○各種競技会・コンテスト等に向け、新しいデザインに取り組み、強度・重量共に条件を満たした高度な作品を目指す。 ●「セメントカヌー競技会」及び「建設技術展近畿橋梁模型コンテスト(学生部門)」で連続上位入賞を目指す。	A		セメントカヌー競技大会では、製作の部では1位に入賞し、建設技術展近畿の橋梁模型コンテストでは、学生部門に2作品を出展する。最優秀賞と優秀賞を受賞した。	セメントカヌーでは、「カヌーのデザインやセメントの軽量化・強度化、加工技術に関する研究」を、橋梁模型では、「橋梁の特性と使用する材料の加工技術の研究」を更に深めていく。	毎年、アイデアを工夫され好成績を獲得されていることに敬服いたします。是非、継続をお願いします。	
	学科の特色を生かし、営繕活動を通して貢献を進める。	○日常の実習を通して、専門知識・技能を深め、環境整備・環境改善を図る。 ●土木工学科の専門技術を生かし、校舎内外の営繕活動を推進し、環境美化を図る。	A	A	昨年度から取り組んでいた、運搬車の車庫建設が完了した。校舎周囲の側溝の溝蓋を製作・敷設した。	専門知識・技能を生かし、環境整備・美化をテーマに、改善を加えながら継続した取組を推進する。	これらの取組は、生徒が真の技術を身に付ける良い機会だと思われれます。こういう取組が「課題研究」でされても良いと思います。	
	○「地域と共にある学校づくり」を推進する。 ●産・官・学の取組を継続する。	B		地域住民の小学生を対象に「ユニボの乗車体験教室」を計画していたが、希望者がなく実施できなかった。	今後も、「地域に根ざした取組」の広報活動を図る。	地域のことを意識していただいて感謝します。これからもよろしくお願いします。		

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
第1学年	基本的生活習慣を身に付けさせ、高校生としてふさわしい生活を確立させる。	○学年やクラスの目標をもとに、欠席や遅刻、早退のない生活習慣を定着させる。 ●出席率90%以上を目指す。	A	A	A	年間を通して出席率は90%以上を達成した。しかし、特定の生徒に欠席や遅刻が集中しているので、改善が必要である。	欠席や遅刻をすることの意味を理解させるとともに、奉仕作業などを通じて改善を促す。	1年生でのスタートをうまく切れるように配慮していただいていると思いますが、さらに丁寧な指導をお願いしたい。
		○「集団生活の大切さ」の認識を定着させ、互いに高め合える、よりよい人間関係を築く。 ●各学期に1回以上、学年集会を実施する。	A			各学期に複数回ずつ学年集会を実施してきたことで、生徒間や教師とのトラブルはほぼなかった。	相手の気持ちを考えて行動することの大切さを繰り返し伝え、小さなトラブルにも素早く対応できるように教員間で情報の共有を図る。	最近、メール等の悪い影響が人間関係をくずしていると思います。学校での啓発活動に力を入れていただきたい。
	学習意欲の向上と進路意識の高揚を図る。	○授業への遅刻や欠席をなくし、授業に対する意識をより強いものにする。 ●教室移動時の遅刻をなくす。	B	B		特定の生徒が繰り返し入室をとることがあった。改善はされてきているが、0には至っていない。	授業の大切さを理解させるとともに、奉仕作業などを通じて改善を促す。	少人数だからこそ、特定生徒の指導についても、丁寧にしっかりとできると思います。
		○「学科選択」を常に意識させ、授業だけでなく定期考査や提出物への意欲向上を図る。 ●定期考査の出席率100%、提出率100%を目指す。	B			何度も繰り返し学科選択について意識付けをしてきたが、提出率100%には至らなかった。	進級や卒業を具体的にイメージさせ、考査や提出物に対する意識を高める。	学科選択は努力の結果を突り安心ですが、来年度もうまくいくとは限らないとも感じました。来年度も丁寧な指導をお願いします
けじめある学校生活の確立と部活動及びボランティア活動への参加を推進する。	○高校生として常識ある判断と自覚ある言動を定着させる。 ●教員間の連携を密にするとともに、保護者への連絡を密にする。	A	A		挨拶や敬語など、指導の成果は表れている。また特別指導にかかる生徒も少なかった。服装や頭髪について、さらなる指導の徹底が必要である。	学校の中だけでなく、登下校時においても服装が乱れないように、駅指導等で徹底していく。	挨拶の励行は、ずっと課題にあげられてきました。やっと向上の兆しが出てきて本当にうれしく思います。継続指導をよろしくお願いします。	
	○部活動顧問や生徒会顧問と連携を図り部活動やボランティア活動への参加を推進し、学校生活に意欲的な生徒を育てる。 ●生徒の部活動及びボランティア活動参加率30%以上を目指す。	A			部活動への参加率は30%以上を達成した。その他の活動にも積極的に参加する姿勢が見られた。	特定の生徒だけでなく、できるだけ多くの生徒に活躍の場が与えられるように声かけをしていく。	部活動も上向きになってきたのは朗報です。部活動の活性化こそ、今後の最重要事項と考えてもいいかと思えます。	
第2学年	中核学年としての自覚をもち、責任ある言動のとれる生徒を育成する。	○第2学年としての自覚をもち、節度のある生活態度を身に付けさせる。 ●第1学年次と比べ、欠席・遅刻の回数を50%以下に減少させる。	B	B	B	欠席回数は昨年度に比べ67%改善され、遅刻は65%改善されたが、昨年度長期の欠席者がいたことを考慮し、更なる改善に努めたい。	来年度は最終学年として、さらに意識的な行動が要求されるとともに、進路を決定する大切な学年でもあるので、自覚と責任をもたせる指導を展開する。	第2学年での充実した学校生活が高校生活全般にとっても大きなものであります。中だるみすることなく、充実した学校生活になるようお願いします。
		○ルールへの遵守や挨拶、正善な言葉使い、自らを律する姿勢や態度を育成する。 ●校門指導や授業の始めに服装の点検を行い、高校生活にふさわしい生活態度を徹底させる。	B			授業中の態度や暴言で指導される生徒が減り、服装の乱れも改善された。特に集会や学校行事では、身だしなみを整えて参加する習慣が身に付いてきており、上級生としての自覚が醸成されてきた。	生徒指導部、進路指導部と緊密に連携しながら、規範意識を高め、生活態度や学習態度をさらに向上させる指導を展開する。	落ち着いた学校生活の様子が伺え良かったです。その雰囲気継続できるよう、一層の指導の充実をお願いします。

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
			A	A	A			
第2学年	進路実現に向けた取組を理解させ、学力の向上を目指す。	○進路意識を高め、授業の大切さを理解させることで、意欲的な学習態度を育む。 ●インターンシップの参加を積極的に奨励し、早期に進路目標を決定させる。	A	A	A	進路学習のホームルームにおいて、様々な説明や体験を通して、将来の進路を積極的に考えることができた。インターンシップ参加者は各研修場所において真剣に活動できた。	将来への展望をもたせ、進路実現に向け、進路指導部と連携して計画的に取り組む。保護者とも情報を共有しながら事前指導を徹底し、不一致のない進路目標の実現に向けて取り組む。	進路の意識が高ければ意欲的な学習に結びつくことは容易に想像されます。2年生での進路指導にその観点も入れていただくことは大変良いことだと思います。
		○「進路学習プログラム」に従って、第2学年としての取組を推進する。 ●積極的に資格取得に取り組むと共に、基礎講座に積極的に参加させる。	A			進路学習プログラムによる各種の体験活動によって、自分の進路について深く考えることができた。また、漢字検定や計算技術検定など資格取得にも積極的に参加できた。	進路学習プログラムに沿い、各教科と連携し、積極的に資格取得を目指して、より良い社会生活のスタートができるように支援する。	資格取得の大切さを生徒に意識喚起させて下さい。しつこいくらい何度でも良いと思います。専門高校の資格取得は必須と考えて欲しいです。
	修学旅行や学校行事に意欲的に取り組む姿勢と態度を育成する。	○自律的に修学旅行へ参加し、充実した活動となるよう、学年としての意識を高める。 ●生徒の積極的な参加を促し、修学旅行満足度80%以上を目指す。	A	A		修学旅行に向けての説明会の開催と、生徒への事前指導により、内容を変え実施した初年度としては、充実・満足した旅行となった。	修学旅行での充実感をもとに、学級・学年経営を継続して行い、さらに充実した最終学年を送れるように徹底する。	初期の目的を達成できた修学旅行だったと聞きました。東京での修学旅行中の活動が県内の新聞に取り上げられることは初めてだと思います。これからも継続して下さい。
		○各学校行事への積極的な参加を促し、集団の中で自らを自覚し、よりよい行動ができる生徒を育てる。 ●各行事に学年として積極的に参加し、体育大会・文化祭の出席率95%以上を目指す。	A			体育大会、文化祭など大きな学校行事への出席率が高く、生徒の積極的な活動意欲が感じられた。 修学旅行への参加は経済的な事情等により、残念ながら2名の欠席となった。	次の最終学年として、範を示すような自覚ある行動を促し、行事への積極的な参加を通して、自己を高めることができるように指導する。	出席率は、100%を目指すべきで、最初から欠席を想定しているのは如何なものかと考えます。
第3学年	規律と節度を身に付けさせ、社会で通用する、行動力のある生徒を育成する。	○最終学年としての自覚をもたせ、節度をもって主体的に行動する姿勢と態度を身に付けさせる。 ●第2学年次と比べ、欠席・遅刻・早退の回数を20%以上減少させる。	A	B	A	1年次からの継続的な指導により、生徒の多くは正しい生活態度が習慣化され、規律ある学校生活を送ることができた。	1年次より、継続して生徒と関わり、良好な家庭生活及び学校生活を送ることができるようになる。	上級生の姿勢・態度はその学校の雰囲気を決めると言っても過言ではない。強制ばかりでなく、自然と良い雰囲気が生まれるよう指導をお願いしたい。
		○社会に通用する常識やマナーを身に付けさせる。 ●進路HRを中心に日常の生徒への関わりを通して、社会人となる心構えを育てる。	B			社会的常識やマナーが身に付いている生徒が大部分を占める中、最後まで自立的な生活習慣が身に付かなかった生徒も一部で見られた。	HRや集会を通して、社会的マナーや常識、欠席・遅刻・早退が、進路実現に影響することをしっかり伝える。	年々、マナーが良くなっていると聞いて安堵している。現状で満足することなく、さらに一層の充実をお願いしたい。

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
			A	A			
第3学年	生徒の進路意識を高め、進路実現に向け意欲的に取り組む姿勢と態度を育成する。	○一般常識や面接・小論文指導等に取り組ませ、進路実現を図る。 ●進路決定率100%を目指す。	A	A	進路指導部との連携によって、学校推薦に関しては進路決定率が100%を達成できた。  進路学習プログラムを軸に進路指導を展開した結果、自らの進路実現に積極的に関わることができた。	生徒のニーズに応じて面談の機会を多く設けて、きめ細かな進路指導を行う。  進路学習プログラムを推進して、早い段階から自らの進路について考えることを習慣化する。	現在、進路実現はうまくいっているが、これは、社会情勢によるところが大きい。社会情勢に左右されない生徒の真の力を付けて欲しい。  早期の目標設定はある意味では最も大切と考えられる。ブレのない目標設定をお願いしたい。
		○「進路学習プログラム」を基軸に、第3学年のステージに応じた取組を展開する。 ●早期に目標を定め、主体的・積極的に取り組む姿勢を養い、進路実現を図る。	A				
	最終学年として学校行事や特別活動等に主体的に取り組む姿勢と態度を育成する。	○高校生活最後の1年を意義のあるものとするため、学校行事等に主体的に取り組む姿勢を身に付けさせる。 ●吉野高校での生活満足度90%以上を目指す。	A		最終学年としての自覚をもち、主体的に体育大会、文化祭などの学校行事に積極的に取り組むことができた。  育てようとする生徒像を明確にして、3年間一貫した指導を展開する。 生徒の心に響く指導をし、強い人間関係を構築する。	学校行事のさらなる充実を望みます。また、生徒の主体的、積極的な取組があつてこそその学校行事であつて欲しいです。	